

# 減災ニュース

和田三丁目東町会

2012.07 減災プロジェクトチーム 発信情報 II

首都直下型の大地震が起こっても、自宅が倒壊しないで無事であれば、震災救援所に避難をする必要はありませんが、個人の備蓄量には限界があり、公的支援が開始されたら震災救援所と連携を保つことが安心です。

震災救援所に避難していて、もし周囲が大火災で危険になるような状況になったら、その時は指定された広域避難場所へ移動しなければなりません。

和田三丁目東町会の震災救援所は高南中学校ですが、広域避難場所は「蚕糸の森公園」です。すぐ隣あわせに広域避難場所があることは、非常に恵まれた避難環境にあるということです。

和田三丁目東町会地域の震災時の安心・安全に大きい意味を持つ広域避難場所「蚕糸の森公園」にはどんな防災設備が備えられているのかを知っておくことが大切です。

## \*「蚕糸の森公園」の位置づけ

区立「蚕糸の森公園」は広さは27,149平方メートル震災時の広域避難場所に指定されています。避難者の受入れ対象地域は高円寺南一丁目と和田三丁目の2地域で想定避難者数は12,700人の設定です。

杉十小学校は震災救援所として一時避難所も兼ねますが、公園周囲は防火樹林帯と不燃建築物で囲まれて火災の延焼を防ぐ手立てが講じられています。さらに放水銃、樹木スプリンクラー、校庭散水設備、ゲートシャワー、応急水槽、備蓄倉庫等の防災設備が整っています。

## \*避難者を炎（輻射熱）から守る設備

この目的の散水設備は次の4種類あります。プールと水槽と池の貯水量でまかないませんが、全設備がフル稼働した場合は連続129分の散水時間になります。これだけの散水設備がある防災公園は区内では他には馬橋公園と井草森公園の2ヶ所があるだけです。和田三丁目はラッキーですね。

1) 放水銃 公園内5箇所があり、50mの距離を360度放水できます。

2) 樹木スプリンクラー

公園内に25箇所あり、放水銃より小型ですが、20mの距離を360度散水と180度散水の2種類あります。

3) ゲートシャワー

公園内に7箇所あり公園の出入口を水の幕で炎を防ぎます。

広域避難場所の蚕糸の森公園

4) 広場スプリンクラー

校庭に13箇所設置されています。

① 放水銃



② 樹木スプリンクラー





ゲートシャワーの散水



緊急時の給水装置



防災設備操作盤

これらの散水設備の運転が公園管理事務所の職員が不在の緊急時に必要になった場合には、和田三丁目西町会防災会の訓練を受けた鍵の預託者が、杉十小の体育館脇にある**運転操作室**に入ってスイッチを入れる作業を実施します。

**\*震災対策用応急給水槽**

この設備は東京都が震災時の飲料水を確保する目的で設置しているもので、災害時の給水は杉並区が行います。一人一日3リットルを目安に3日分の確保に必要な飲料水の量は杉並区の人口を54万人とすると486万リットルですが、杉並区内全体にある東京都の飲料水確保拠点での確保量は8,370万リットルに達していて、約52日分が賄える比較的恵まれた状況にあります。

蚕糸の森公園内の都の給水設備は、この場所への避難者専用というわけではありませんが、貯水量は150万リットルありますから、避難者が計画の12,700人であれば40日間は大丈夫という計算にはなります。ここに貯水された飲料水は、常時3日間で入替えられるように一般家庭の水道水に配給されながら、常に新鮮に保たれています。

杉並区ではこれらの給水設備に加えて、昨年より5ヵ年計画で備蓄ペットボトルを現状備蓄数(2リットル×25,700本)に加えて2リットル×120,600本に増加備蓄する予定です。

次回以降にその他の施設、備蓄倉庫や医療救急対応等の対策を説明する機会を設けます。

ゲートシャワー入口



自家発電装置



震災対策用応急給水施設



手動ポンプ



給水準備



給水パイプ

